

2025年度 核融合科学研究所スクーリング・ネットワーキング事業  
実施報告書

Fusion Science School (FSS)					
実施責任者	所属機関・部局： 国立研究開発法人量子科学技術研究 開発機構	職名： [REDACTED]	氏名： 柏木 美恵子		
実施責任者連絡先	電話： [REDACTED]	E-mail： [REDACTED]			
スクールテーマ	ウイメン・イン・フュージョン・アンド・サイエンス				
開催時期	令和7年12月8日—令和7年12月10日				
開催期間	3日間				
開催場所	茨城県水戸市 水戸プラザホテル				
参加人数	参加者：31人（うち、学生24人）：事前申込み時、35名で4名は都合で辞退。 講師：9人、実行委員等12人 ※ スクール参加者リストを添付すること。氏名、所属、職種・職位・学年、メールアドレス等を含むこと。				
執行内訳 (単位：千円)	物品費	旅費	人件費・謝金	その他	合計
	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]
※ 収支報告書は、別途通知する様式にて証憑書類とともに提出すること。					
実行委員会構成（原則として3か所以上の異なる所属機関の委員で構成）					
	氏名	所属機関・部局	職名・学年	メールアドレス	
実行委員長 (実施責任者)	柏木 美恵子	国立研究開発法人量子科学技術 研究開発機構	[REDACTED]	[REDACTED]	
経理責任者 (実行委員長と同 機関の事務職員)	飯田 哲也	那珂フュージョン科学技術研究 所トカマクシステム技術開発部	[REDACTED]	[REDACTED]	
実行委員 (人数に応じて行 数を増やしてくだ さい)	村上 泉	国立研究開発法人量子科学技術 研究開発機構	[REDACTED]	[REDACTED]	
	奥村 幸子	那珂フュージョン科学技術研究 所管理部経理課	[REDACTED]	[REDACTED]	
	飯田 直子	大学共同利用機関法人自然科学 研究機構 核融合科学研究所 研究部	[REDACTED]	[REDACTED]	
	足利 沙希子	日本女子大学 理学部	[REDACTED]	[REDACTED]	
	小島 有志	大学共同利用機関法人高エネル ギー加速器研究機構	[REDACTED]	[REDACTED]	

※ 次頁に続きます。

スクールの実施内容及び得られた成果等  
※ スクールプログラムを別紙で添付すること。

1. 本事業によって得られた成果のうち特筆すべき事項

○スクールの趣旨である「核融合コミュニティを大きく発展させる観点から、特に核融合に興味があるがまだ参入していない他分野核融合と関連分野」として、核融合と共通技術基盤を有する加速器・天文分野も含めたスクールとした。その結果、北海道から四国・中国地方まで日本全国から参加者を集めたスクールを開催することができ、FSSの趣旨である、全国的に広く参加者を集め、核融合に興味があるがまだ参入していない人々、特に今後のキャリアパスを検討している若い世代に、改めて核融合に興味を持ってもらうことができた。

○スクール開催後のアンケートでは、高評価（5点満点中4.7点）となった。

○コミュニケーションを図るイベントとして3択問題を用意し、今後のアウトリーチ活動で参考のできるデータを集めることができた。

2. その成果が核融合分野の人材育成に果たした（果たすと期待される）事項

○参加者の大半は大学生1年～4年生であり、アンケート結果をみると、本スクールとQST見学を通じて、改めて核融合にも興味を持つ人材の掘り起こしができたことがわかった。

○女性向けアウトリーチ活動は、女性のキャリアパスの経験談に寄る傾向があり、それは個人的な経験で、質問しにくいところがあると感じていた。そこで、今回の工夫として、講義依頼に際し、「先生のご専門の研究分野紹介、先生のご専門の研究内容紹介など、仕事上のご経験を中心にお話頂きたい。それにより、参加者にとっては、女性のキャリアパスや研究開発に携わる人の歩みについて、自然と示唆に富む内容になると思う」と依頼した。その結果、講義の内容はわかりやすく、研究分野で突き進むための生活上の工夫や経験を話してもらう形となった。結果として、女性ならではの苦労や工夫が含まれているものの、研究者として生き残っていくためのキャリアパスの話となり、参加者から質問が止まらず、アンケート結果も、科学知識だけでなく女性研究者の生き方に触れ、参考になった、と高評価を得た。講師陣からも「これまで多数講義をしてきたが、こんなに活気のある講義は初めてで感動した」との声をいただき、今回のスクールを通じ、技術的に共通基盤を有する分野で、年代を跨いだ女性ネットワーク構築の礎の一步となった。

○人的ネットワーク交流の一端でクイズを行い、今後のアウトリーチ活動に参考になるデータを集めた。その結果、科学技術分野に興味を持ってもらえる年代として、大学生以下の世代に向けたアウトリーチ活動の重要性、が見えてきた。参加者からも、もっと早い時期にこのようなスクールに参加したかった、という声があった。

○講師の先生方の親の代は、JT-60の建設に参加した世代だったりし、講師の先生方と核融合のつながりも深まり、今後の横展開に向けての窓が開いた感じがある。

○キャリアパス相談会を開催し、学生向けの制度から就職までキャリアパスに関する具体的な情報を紹介することができた。

3. 今後改善すべき点について参考となる事項

○アンケート結果から改善を検討する余地がある点を列挙する。

- ・講師は、その分野の全体像を話すことができる中堅・ベテランを入れた方がよい。
- ・少し実習的なものがあったもよい。
- ・開催時期は学校の休講期間である8月か2月がよいのではないかな。

○今回、女性中心のネットワークができ、参加者も今後も繋がっていききたい希望が多かったが、それを受け止めるホームページ等の開設までは準備できていなかった。本活動の成果を実際のリクルートまでつなげるためには、数年間の継続が必要と思われ、それを見越した情報提供の場を設けていく必要がある。

○今回、初回であったため、手探りで実施したが、リクルート活動に繋げていくためには、スクール開催後のアフターケア（アンケート集計、講義資料や写真の集計・配布、人的ネットワークの継続支援）なども重要で、そのためには事務支援の人材が必要と感じた。

備考	<p>○募集時、日本の大学に所属する留学生、海外留学中の日本人学生、男子学生からも申込みがあったが、今回は輸出管理の煩雑さを避けるため、国内に居住する女性の日本人、と限定した。また、今回集めたデータからは、大学生未満の学生への教育が重要であることが示唆されている。今回のようなスクール体制で、大学1年生以上の男性、大学生未満を対象にした同類のスクールは意義があると思われる。</p> <p>○別添資料は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>01_収支報告書</li><li>02_参加者リスト</li><li>03_プログラム</li><li>04_報告会発表資料</li><li>05_アンケート結果</li></ul>
----	---